

令和7年度 瑞穂幼稚園 自己評価報告書

1. 本園の教育目標

- ・心身ともに健康であること
- ・優しさと思いやりをもつこと
- ・自ら挑戦すること

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・園生活やお出かけの中で、自然とふれあい自分の思いや感情を自分なりの言葉で伝える
- ・友達の思いにも気付き、共感できるようになる
- ・教職員は活動において子供たちの主体性を尊重し、援助すること

評価基準

施設関係者に対し自己評価アンケートを実施し、その結果を各項目について、3段階（A,B,C）の基準で評価し平均値を表記する。

- A. 十分に達成した
- B. 概ね達成した
- C. 取り組みが不十分である

3. 評価項目の取組及び達成状況

項目	評価項目	結果	成果・課題
安全管理・危機対応	日常的に安全点検や環境整備を行っている	A	日頃からリスクマネジメントの視点を持ち、職員一人ひとりが園内や日常的に利用する公園等の危険箇所の確認を行い、安全な保育環境の維持に努めることができた。 やまほいくを実践する中で、経験豊富な職員を中心にフィールドワークを実施し、自然環境における危険予測や安全確保に関する知識・意識の向上を図ることができた。
	こどもの体調や変化に気づくよう意識している	A	少人数制教育の利点を活かし、日頃から子ども一人ひとりと丁寧に関わることで、体調や気持ちの変化、普段との違いに気づきやすい環境づくりができています。
	ケガや体調不良時に適切に対応できている	A	オンライン研修等を活用し、切り傷や鼻血、虫刺されなどの日常的なケガへの対応から、熱中症など緊急時の対応まで、職員全員で学ぶ機会を設けることができた。
	緊急時の対応（避難・連絡等）を理解している	B	シフト体制のため、全職員が避難訓練に参加できない場合があることから、訓練内容や課題をより確実に共有できる仕組みづくりが必要である。 災害や事故等の緊急時に全職員が共通認識のもとで行動できるよう、避難経路や連絡体制の確認、実践的な訓練の充実を図っていききたい。
保育の質・子ども理解	子ども一人ひとりの発達や個性を理解して関わっている	B	視覚的支援を取り入れるなど、子ども一人ひとりの発達段階や特性に応じたコミュニケーションを実践し、それぞれが安心して過ごせる環境づくりに努めることができた。また、芸術活動や自然体験など多様な経験の機会を設けることで、子どもたちの興味・関心や個性、才能を見つけ、それらを伸ばすための関わりを行うことができた。 今後は「探究型保育」を取り入れ、子ども自身の「やってみたい」「知りたい」という気持ちを大切にしながら、個性や才能をより主体的に伸ばしていける保育の実践を進めていききたい。
	こどもの気持ちに寄り添った関わりができています	A	少人数保育の利点を活かし、日頃から子ども一人ひとりと丁寧に関わることで、それぞれの思いや気持ちを受け止めながら個別に寄り添った支援を行うことができた。
	主体性を大切にしたい保育を意識している	A	子ども主体の保育を大切に、日々の活動内容やお出かけ先などについて子どもたちと話し合いながら決定することで、自分の意見を伝えたり、友達の意見を聞いたりする機会を設けることができた。
	日々の保育を振り返り、改善につなげている	A	職員間の連携を大切に、日々の子どもの様子や保育の中での気づき、対応方法などについて積極的に情報共有を行うことができた。子ども一人ひとりの状況を職員間で共通理解することで、保育を振り返りながらより良い関わりや支援につなげることができた。

保育環境・活動の工夫	こどもが安心して過ごせる環境を整えている	A	昨年度から園内環境の見直しを行い、「場所」と「活動」の目的が一致するような環境整備を進めた。工作スペースや午睡室を設けるなど、活動内容に応じた空間づくりを行ったことで、子どもたちが見通しを持って安心して過ごせる環境を整えることができた。
	年齢や発達に応じた活動を工夫している	A	子ども一人ひとりへの個別対応を大切にし、年齢や発達、興味・関心に応じた活動を用意することで、それぞれが無理なく意欲的に取り組める環境を整えることができた。また、子どもの気分やその日の状態に応じて活動を押し付けることはせず、安心して過ごせるよう配慮することができた。
	興味・関心を引き出す環境構成を意識している	A	「やりたい」という子どもの気持ちをすぐに形にできるよう、絵の具や工作材料などを常時使える環境を整備し、子どもが自発的に表現活動へ取り組めるようにすることができた。また、園の図書館には幅広い絵本や図鑑を揃え、子どもがいつでも自由に手に取り、興味・関心を広げられる環境づくりを行うことができた。
コミュニケーション（こども・保護者）	こどもに分かりやすい言葉や関わりを意識している	A	視覚的支援を活用しながら、子ども一人ひとりの理解度や発達に応じた多様なコミュニケーション方法を取り入れることができた。また、言葉かけにおいては肯定的な表現を意識し、子どもがのびのびと過ごせるような関わりを心がけることができた。
	保護者に対して丁寧で分かりやすい対応をしている	B	降園時にその日の子どもの様子を丁寧に伝えることを日常的に行い、保護者が園での生活や成長の様子を具体的に把握できるよう努めることができた。また、オンラインツールを活用し、迅速な連絡や園での活動報告、情報共有を行うことで、保護者との円滑なコミュニケーションと信頼関係の構築につなげることができた。
	保護者の気持ちに寄り添った対応ができています	A	保護者が一日園で過ごす機会（チューターデー）を設け、園での子どもの普段の様子を実際に見てもらうことで、保育への理解を深めてもらうことができた。また、その際に懇談会の時間を設定し、子どもの様子や園での保育内容について気軽に話し合える場をつくることで、保護者との相互理解や信頼関係の構築につなげることができた。
職員間の連携・協働	職員同士で情報共有ができています	B	オンラインツールを活用することで、シフトの関係で園にいない職員にも、子どもの様子や引き継ぎ事項、行事や日々の予定などを随時共有できる体制を整えることができた。また、毎朝の職員ミーティングや月1回の職員会議を通して、保育内容や子どもの姿について話し合う時間を確保し、職員間での共通理解と連携を深めることができた。
	困ったときに相談しやすい関係がある	A	昨年度から新しいチーム体制となり、別の職からの転職職員も含めてスタートしたが、先輩保育士や幼稚園教諭の助言やサポートを受けながら、安心して園の業務や保育に慣れていくことができた。日頃から職員間の関係は良好に保たれており、困ったときに相談しやすい雰囲気づくりができています。
	チームの一員として協力している	A	園内に複数の活動場所がある中で、職員が連携し、それぞれの場所に適切に配置されるよう協力体制を整えることができた。また、園外活動やお出かけの際には、安全を最優先に考え、事前の危険箇所の確認や役割分担を明確にすることで、チームとして一体となって保育・引率に取り組むことができた。
専門性・自己研鑽	保育に関する知識や技術の向上を意識している	A	子どもたちの園生活がより充実したものになるよう、職員間で日々の活動内容について意見を出し合い、保育内容を検討することを通して、保育に関する知識の向上につなげることができた。また、朝の会の担当や絵本の読み聞かせを交代制にすることで、職員それぞれが多様な保育実践に関わる機会を持ち、園全体として保育技術の向上を図ることができた。
	研修や学びを日々の実践に活かしている	B	学んだ内容を職員間で共有しながら実践することで、保育の質の向上につなげることができた。 研修や学びで得た内容を一時的な理解にとどめず、継続的に実践へ反映できるよう、定期的な振り返りや確認の機会を設けていく必要がある。
	自身の課題を理解し、改善しようとしている	A	職員それぞれの特技や強みを活かしながら役割分担を行い、適切にリーダーシップを発揮できる体制を整えることで、責任感を持って保育に取り組むことができた。
業務・役割意識	自分の役割や担当業務を理解している	A	職員それぞれの特技や強みを踏まえた役割分担を行い、自分の担当業務を理解した上で保育に取り組むことができた。また、職員間で連携を図ることで、日々の業務や引き継ぎも円滑に行うことができ、安定した保育運営につなげることができた。
	計画的に業務を進めている	A	日頃からスケジュールを有効に活用し、計画的に業務を進めるよう努めることができた。また、幼稚園という現場の特性上、予定通りに進まない場面もあるため、その都度状況に応じて柔軟に対応しながら業務を調整し、円滑な保育運営につなげることができた。
	責任を持って仕事に取り組んでいる	A	幼稚園という大切な子どもを預かる責任のある職務であることを常に意識し、職員全員が園児の安全と安心を第一に考えながら、責任感を持って日々の保育に取り組むことができた。

職場環境・組織運営	園の方針や目標を理解している	B	園が転換期を迎える中で、新しい取り組みや方針について職員間で共有し、「こども主体の保育」を園全体の共通目標として意識しながら日々の保育に取り組むことができた。 新しい取り組みに対して職員間で理解や捉え方に差が見られる場面もあるため、園の方針や目標をより具体的に示し、共通理解を深めていく必要がある。そのためにも、カリキュラムの整理や「育ってほしい子どもの姿」を明確にし、全職員が同じ方向性を持って保育に取り組める体制づくりを進めていきたい。
	園全体の雰囲気づくりに関わっている	B	定期的な職員会を通して職員同士が顔を合わせ、子どもの様子や保育に関する情報・意識の共有を行うことで、園全体として共通理解を持った保育を進めることができた。その結果、職員間の連携が深まり、安心して意見交換ができる雰囲気づくりにつながっている。
	働きやすい環境づくりに意識を向けている	A	職員間の連携を大切にし、それぞれの業務に対して肯定的な声かけや協力的な関わりを意識することで、互いに支え合える関係づくりを行うことができた。また、保育以外の業務についても職員間で分担・調整を行い、業務が偏らないよう工夫することで、負担軽減と円滑な業務運営につなげることができた。